

# 絵でつないできた37年間 カナガワビエンナーレ



## 国際児童画展 回顧展

てらんかい み き きみ  
展覧会を観に来てくれた君たちへ

《カナガワビエンナーレ国際児童画展》は、1979年の国際児童年がきっかけで、1981年に始まりました。展覧会の名前にある「ビエンナーレ」は、イタリア語です。その意味は、「2年に1回開かれる美術展覧展」です。イタリアには、120年以上前から開かれている《ヴェネチア・ビエンナーレ》という国際美術展があります。

《カナガワビエンナーレ国際児童画展》は、神奈川県と外国の子どもたちが描いた絵を紹介する展覧会です。第1回展（1981年）から第18回展（2015年）までの総応募作品数は650,000点を超えています。毎回の参加国・参加地域の数は平均約100カ国・地域になります。

神奈川県でも地域によっていろいろな文化やならわしがあるように、外国にも、いろいろな文化や宗教、生活の仕方があります。それを多文化と言います。そして、それぞれ立場の違う人々を、等しく同じように扱い、ともに生きることを多文化共生と言います。多文化共生は難しいことですが、ひとつひとつ解決してゆこうとする気持ちが大切だと感じます。絵を通じての多文化共生の実現は、《カナガワビエンナーレ国際児童画展》を開く目的のひとつです。

今回の展覧会では、《カナガワビエンナーレ国際児童画展》の第1回（1981年）から第18回（2015年）までの神奈川県の子どもたちの大賞作品18点を中心に、外国および神奈川県の一般入選作品をあわせて紹介します。今回は神奈川県の大賞作品だけを展示しています。

普通の平和な日常生活や学校生活を描いた作品や自分の住む国や地域で起きた悲しい出来事をテーマにした作品など、さまざまな見方で、さまざまな思いで、描かれた作品があります。作品のひとつひとつは創造の入り口でもあります。創造の世界を楽しんでください。

ねん がつ  
2016年9月

こくさいじどうがてんじむきよく  
カナガワビエンナーレ国際児童画展事務局

